

■ 戦略経営研究会 163rd ミーティング 議事録

日 時：2025年4月5日(土) 14:00-16:40

場 所：竹橋／ちよだプラットフォームスクウェア会議室+Zoom

タイトル：27周年記念！

話が分かりやすく仕事が早い人になるために

～仕事ができる人は4つのことだけを考える～

発表者：富沢裕司さん（マキシマイザー株式会社 代表取締役。ビジネス研修講師）

参加者：12人（コーポレート部門、会社経営、大学教員、会社員、コンサルタント、FP、エンジニア、公務員、NPO 法人理事長、行政書士、司法書士等）

目次：

1. 本日のゴール
2. ロジカル思考を理解する
3. ロジカル思考を活用してわかりやすく書く・伝える手法
4. 全体のまとめ

発表：

1. 本日のゴール
 - ・ロジカルに仕事をするをするため、ロジカル思考について理解を深める。
 - ・ロジカル思考を活用して、わかりやすく書く・伝える手法を理解する。

2. ロジカル思考を理解する

まずはロジカル思考を定義します。ロジカル思考とは、どのような考え方でしょうか？ ①内容が目的に合っていることです。②全体の構造が明確であることです。③答えに対して理由が適切であることです。④情報に漏れや重複がないことです。言い換えると、合目的、構造化、論拠、網羅の4要素から成り立っています。仕事ができている人はこの4要素を押さえています。

内容が目的に合っていないと「それじゃないよ」となります。全体の構造が明確でないと「何が言いたいのか？」となります。答えに対して理由が適切でないと「ほんとう？」となります。情報に漏れや重複があると「それだけ？」「ほかには？」となります。仕事ができている人はこういうことを言われないので仕事が早くなります。逆にできていないと、時間のムダが発生します。ムダが1日20分間、社員数300名、年間勤務日数が240日の場合、24000時間になります。しかも時間をムダにしたことで、その時間で生み出せたはずの付加価値も生み出せなくなります。世界各国のGDPの変化を見ると、日本の成長停滞は明らかです。この原因は、日本にはロジカル思考力が足りないと考えています。情報化社会では数字と言葉が中心になります。日本は情報化社会に対応できているとはいえません。

合目的、構造化、論拠、網羅を目に見えるところに置き、コミュニケーションの前にチェックすべきです。ロジカルに考えるための簡単なコツは次のとおりです。①「目的は」と言う、書く。②最初に何個あるか言う、書く。③理由を具体化して比較する。④相手に確認する、枠組みの活用（④は他力が重要です。生成AIのチェックリストも使えます）。

ただし、4要素は万能性のあるツールではないです。創造性とは違う分野です。ビジネスをスムーズにするためのものと理解しましょう。

ピンチのときに考えるべきことは何でしょうか？ 「ピンチのときは???しなさい」 この???に入る言葉は何でしょうか？ 正解は「訓練を思い出しなさい」です。事前に練習していない人はピンチに対応できないということです。それでも事前に練習していないことは起ります。そのような時はなんとか少し時間をもらい、合目的を重点に考えましょう。

3. ロジカル思考を活用してわかりやすく書く・伝える手法

①合目的

仕事は手段なので目的を明確にして進める必要があります。目的には難易度が5段階あります。簡単なものから順に常識、想像、確認、分析、議論です。目的に明確化のために、この難易度に応じて必要な事項を理解しておく必要があります。たとえば、想像であれば、いつも上司が言っていることなど、確認であれば、相手に聞けばわかることなどです。とはいえ、「目的は何ですか？」だと、言い方にトゲを感じる人もいます。そういう場合、「しっかり仕上げたいので」と一言付け加えるのが良いです。

合目的をまとめると次のとおりです。目的とは未来のより良い状態であり、同じ意味の言葉は理想、あるべき姿、ゴールなどです。目的を明確にして実現することが仕事であり、自分の仕事が目的につながっているか確認します。目的により明確化の難易度が異なりますが、日常業務では多くの場合、想像と確認で明確化できます。

②構造化

目的に対して何が必要かを考えます。必要な事項が構造の柱になります。三角形、四角形、マルの3パターンがあります。構造は明確だと最初に構造をできます。応用して使うことが必要です。分けて整理すればそれが構造になります。

目的を達成するために考える点のことを論点といいます。知りたいこと、決めたいことともいいます。たとえば、目的がスマホを選ぶことであれば、論点は重さ、性能、価格などになります。重さ、性能、価格の三角形で情報を整理することができます。情報の種類を揃えることで明確な構造ができます。

構造化をまとめると次のとおりです。目的に対してどのような構造が良いのかを考えることが構造化の出発点です。構造は三角形を基本としたうえで、パターンがあります。ゼロから考えるよりも良いパターンを真似るほうが早いことも多いです。構造を確立するために論拠と網羅が必要になります。

③論拠

論点に対する答えである結論に対して理由が適切であることです。結論に至るために証拠、根拠、論拠があります。証拠は根拠の存在を示すもの、根拠は論拠を支える事実、論拠は結論を支える背景、考え方です。たとえば、「友だちと2人で夜に会って近況を話す」という目的があり、論点（知りたいこと、決めたいこと）は「東京駅の八重洲口で気軽に行ける飲食店はどこか」とします。結論は「居酒屋Yがお薦めです」、その論拠は「安いから」、根拠は「生ビール1杯290円。普通は安くても380円のはず」、証拠は「お店のWEBページに載っているから」となります。人は論拠で納得します。結論より論拠が重要なケースが多いです。

論拠をまとめと次のとおりです。構造化において、構造の中身が正しいことを示す必要があります、そのためには論拠が求められます。特に日常業務において、ロジカル思考を最も活用する機会が多いのが、結論（意見・判断・提案など）を伝えることであり、そのとき論拠が重要になります。目的・論点・結論・論拠・根拠・証拠の構造を常に意識して業務に取り組むことです。

④網羅

網羅は情報に漏れ、重複がないことです。網羅がないと構造に欠陥が生じます。漏れがある場合、ミスが生じます。重複がある場合、効率が悪くなります。漏れは怖いという感覚が大切です。仕事だけでなく日常生活でも確認やチェックが漏れると、トラブルや問題発生の原因になります。

網羅をまとめと次のとおりです。網羅は網目のように漏れなく重複なく、情報や要素を整理することです。構造を確立するために網羅は必須であり、できていなければ、構造の欠陥となってしまいます。特に漏れは怖い、漏れがあると答えが正反対になりかねないと認識することです。

4. 全体のまとめ

ロジカル思考の第一歩は、目的を明確にすることです。目的に対して構造を考えることで、情報の整理ができて分かりやすくなります。論拠を具体化させて根拠を整えること、そして必要な情報を網羅することで、構造が強固になります。

頭の使い方のイメージとしては縦と横です。縦は目的を確認することと、話しを深掘りすることです。横は全体を定義することと、網羅することです。縦の思考と横の思考を両立させていく必要があります。

ロジカル思考の実践のための「ロジカル報連相」を説明します。コミュニケーションは最初に目的と内容の数を言うこと、書くことです。たとえば、「ご連絡あり、計2点です。まず1点目は・・・」という感じです。送信メールの場合、件名、タイトルで内容がイメージできるようにすることと、本文は箇条書きで整理し、番号をふることです。

毎日実践してほしいことは、「毎日、考える時間をつくる」「仕事の目的を明らかにする」「相手の意図、知りたいこと、決めたいことは何か、明らかにする」「結論と構造を意識した伝え方

をする」「メール、レポートは構造化を心がける」「論拠は適切か、漏れはないか、意識する」
です。

ぜひ、本日の内容を少しでも実践して、ご自身の仕事の効果、効率を高めていってください。
成果とは短期的なものではなく、1年、2年と継続した時に生まれる差分です。

以上